



ホームページ [http://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/](http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/)  
メールアドレス [kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp](mailto:kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp)  
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292

## 旭川校でますます発展するへき地教育プログラムの実践

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター  
センター長 玉井 康之

北海道教育大学では、日本全体の少子化・小規模校化を踏まえ、全学的にへき地・小規模校教育を推進しています。今回はその一環として旭川校のへき地教育プログラム（へき地校体験実習とへき地教育論など）をご紹介します。

旭川校では、へき地教育論講義が250名、へき地校体験実習希望者が140名と、かなりの学生がへき地教育に関心を高めています。旭川校の学生のアンケート結果を見ると、へき地教育の学生の評価が高く、また後輩にへき地校体験実習を勧めるなど、へき地教育を学ぶ意義が口コミで広がっています。それは、旭川校の学生たちが、少人数指導が次代の潮流となることを予想しているだけでなく、学生がへき地・小規模校に行き、教師としての喜びや“教育の原点”としての教育活動の真髄に触れたと感じているからでしょう。旭川校の坂井先生、芳賀先生、へき地教育アドバイザー田中先生の3人のご報告から、旭川校での教育効果をとらえたいと思います。



\*\*\*\*\*

### 広がる旭川校のへき地校体験実習

—「へき地校体験実習ってすごいんだなあ…」と実感—

旭川校へき研センター員 坂井 誠亮



旭川校のへき地校体験実習の特徴は、実習を希望する学生の多さと熱意です。

今年度も、へき地校体験実習説明会に140名ほどの学生が集まりました。また4月21日の抽選会には96名の学生が56の実習枠をめぐる、くじを引きました。

左の写真は、その抽選会の様子を写したものです。抽選に当たった学生は、嬉しさのあまり歓喜を上げ飛び上がったり、ガッツポーズをしたりという光景が見られます。一方、抽選に外れた為に、涙を流す学生もいます。

また3年前、抽選に外れた私のゼミ生が、「ボランティアをしてでも、どこかへき地校で学びたいので紹介してください。」と言いに来たこともありました。旭川校では、へき地校体験実習に参加したいと願っている学生がたくさんいます。しかし、これは旭川校が、へき地校体験実習を『我がキャンパスの特色ある取組』として、大々的に学生に宣伝し、重点的に推進してきたからということでもありません。教職員から声かけをするというより、どちらかといえば学生の中で、先輩から後輩へ「へき地校実習に行って、本当に良かった。」ということをして、口コミで伝え広がってきたものでしょう。この取り組みの評価を学生たち自らが言い、根付かせてきたのです。

12月22日、へき地校実習報告会があり、194名の学生が集まりました。右の写真は、その時の様子を写したものです。8名の学生が、実習体験を発表しました。

「良い授業を作るには、児童理解が何よりも大切だということを学びました。」

「5日間があっという間に過ぎてしまうほど、毎日充実していました。」

「教師になるか迷っている人こそ、行ってほしい。」

発表している学生たちが発する言葉の一つ一つに、確信を感じ取りました。

改めて、「へき地校体験実習ってすごいんだなあ…」と実感しました。



## = 12月22日へき地校体験実習報告会に参加した学生の感想 =

### ◇ へき地校体験実習報告会感想：実習参加者

#### 【2年生】

発表校は全て「地域との関わり」を大切にしており、祭りに参加したり、障害者施設に行き合唱をしたりという活動があって、とても温かい学校だという印象を受けた。

私がへき地校体験実習に参加する動機は「本実習に向けて力をつけたい」「へき地教育とはどんなものなのか知りたい」というものだった。今日の発表を聞いて、自身の実習を思い出し振り返ってみると、その目標以上に大切なもの、出逢いにめぐり合えてとても充実した体験だったと改めて感じる事ができた。

なぜこの実習を体験した人で4年生になって教職を志望する割合が大きいのか。その理由を考えると、やはり2年生というこの時期に実習を体験することで、子ども達の様子や授業の様子などのリアルな現場を観察できる、自分の今鍛えなければいけないところを見つけられる等の発見を多くできるため、本実習までに課題を意識・研究できるからだと考え。その教育に対する研究を他の人より長くできることが、4年生になって生きてくるのではないかと強く感じた。

## 【2年生】

6人の発表を聞いて、色々な発見や新たに学ぶことができました。

まず、一番びっくりしたのが人数のバラツキです。私が行った実習校は全校児童生徒5名でした。全校生徒88名の中学校にとっても驚きを感じました。

M君の「へき地でひとくりにするのではなく、それぞれの学校で特色が違うのではないか」という言葉に共感しました。実際に私の実習校は義務教育学校なので、独特な教育方法があり、とても知識を深めることができました。

特に共感できたのが、A君の「迷っている人は是非行ってほしい」という内容でした。私も同感で、そもそも、まずへき地というものを体験してほしいですし、教員の大変さ、面白さを味わってほしいと思います。

## 【前年度実習参加者 3年生】

私もへき地校体験実習を行ったため、今回の報告会に参加して、改めてへき地校体験実習のよさを感じた。たった5日間という短い期間ではあるが、今年行った5週間の中学校実習と同様の実りある実習であった。5日間の実習はとても貴重な経験であり、今後も人数は限られているが多くの人に参加してもらいたいと思う。

報告会を通し、多くの報告者の方が、大変ではあったが実習に参加してよかったと言っていた。私も実習中は生活面（車で片道30分の銭湯に行ったり、トイレが水洗でなかったり……）での大変さ、日誌に追われる日々ととても大変ではあったが、それよりも子どもたちと関わることや先生方から指導していただいたり、また最終日にはお疲れ様会をしていただいたりと、実習がとても充実していたなと振り返った。

## ◇ へき地校体験実習報告会感想：へき地教育論受講者

## 【1年生】

へき地だから学校の設備が整っていないと思ったけど、充実している学校もあるのだと思って、学校それぞれによって違うものなんだと感じた。

へき地で特別支援の必要な子どもがいた場合、特別支援学級がある学校ならよいけれど、ない場合はどうするのだろうかと思った。

少ない生徒数だから、子どもの理解度を把握しながら教師が授業できること、また、子どもの発言を拾いやすく、授業を進めやすいことがメリットだと思った。

教員と生徒の関わりのみならず、保護者や地域社会との連携を大切にすることで子どもたちに良い教育ができるし、子どもが受ける体験活動などにつながるのではないかと感じた。

小規模校によって、山村留学を希望する子や地域に学校しかない子など、いろんな事情がある中で、その学校、それぞれの地域の行事参加や体験活動など良さを生かした活動をしていると感じた。

へき地=学力が低いというイメージがあまりなくなった。授業以外の教員の仕事も大切だとわかった。

### 【1年生】

今回、報告をしていただいたへき地校全てが、へき地であることをマイナスに捉えていなく、むしろへき地校でしか行えないことをポジティブに最大限にいかされて、子ども達、教員、そして地域がとても生き生きしていると感じた。

複式学級の授業の様子を聞いて、直接指導や間接指導を設けて授業を行っていたが、校長先生や教頭先生が補助に入るなどして子ども達のことを優先に授業をされているなどと思った。

私は名寄市出身なので、下多寄、上士別、美深出身の友人もいて、その友人から「小学校・中学校の学校生活がすごく楽しかった。小学校・中学校好きだよ。」という話を聞いたことがあり、今回実際に学校の様子を聞いて、自分が小・中学校の時には経験したことのないことを体験していたりと、へき地校だからできる貴重な経験があるのだと感じた。

地域の協力あってこそそのへき地教育だなと今回の報告を聞いて思った。

### 【1年生】

今回の先輩方の報告を聞いて、すごく勉強になりました。自分も「へき地校体験実習」に行きたいと強く志願してこの大学に入学しました。そして、「へき地教育論」を受講し、「へき地」というものは何なのかについて詳しく学んできました。しかし、講義だけ聞いても分からないことは多かったです。しかし、今回の報告を聞いて分かったことがたくさんありました。その中で一番印象に残ったことを書くとするなら学力格差と山村留学についてです。講義の中でも度々学力格差については述べられていましたが、それぞれの学校で特色ある対策を行っており、本当に学力格差は存在するのかと感じました。

また、自分がよく理解していなかった山村留学の制度についても今までよりは理解が深まったかなと感じました。

来年、2年生になってへき地校体験実習に自分も志願したいと考えています。もし、行けることになったら、強い気持ちを持って頑張りたいです。

### ◇へき地校体験実習後の感想：実習後のアンケートから

### 【2年生】

実習に行くことができ自分自身大きな経験を得ることができ、たいへん学びの多い5日間だった。児童と積極的に関わる大切さやへき地ならではの取り組みや行事、現職の先生方の仕事を知ることができて充実していた。

### 【2年生】

この実習に参加して、達成感や喜びを感じることができ、教師になりたいという気持ちが強まりました。今後の学校生活の中で、様々な壁が立ちはだかるのではないかと思います。その時には、実習での楽しかった思い出を原動力にし、児童や先生方から教えていただいたことを生かして頑張りたいと思います。

### 【2年生】

行く前と行ったあとでは、講義を受けていても「ああ、あのとき、こうすればよかったのか」など、多くのことがつながり、具体的な考えを持ちながら授業を受けられるようになった。



## へき地教育実習が、学生の様々なへき地に対する

### イメージに与える教育効果について知りたい

旭川校へき研センター員 芳賀 均

へき地は、生活上、不便なことが少なくない地域です。

しかし、様々な観点から考えると、基幹地域といえそうな東京や札幌などの大都市に対して、それを支える基盤地域といえる重要な存在であると私は考えています。このことは、デューイの「山頂は何の支えもなく、宙に浮いているのではない。それは、地上にただ置かれているのでもない。それは際立った作動の一つとしての地球そのものである」（傍点は原文ママ。J. デューイ著／河村望訳『経験としての芸術』人間の科学社、2003、pp.9-10.）という言葉に連想させます。

私は、アウトリーチによる出前音楽演奏の活動を継続的に行っていますが、それに参加した学生が、へき地に関心をもったり、へき地に対するイメージが変わったりする様子に毎回触れることとなります。同様に、へき地教育実習も、同様な影響をもっているのではないかと思われるのです。

そこで、その調査を思いたち、へき地教育アドバイザーの田中和敏先生とともに、アンケート調査に取り組むことにしました。

質問項目は以下のようなものを含み、へき地に対するイメージを様々な観点から捉えようと試みるものです。

#### へき地教育実習前後の気持ちについてのアンケート（抜粋）

- ・へき地の困る点はなんだと思いますか
- ・へき地の良さはなんだと思いますか
- ・へき地に住みたいと思いますか
- ・もしも住むことになったら何歳代まで住めますか
- ・もしも、ご自身に「子ども」ができたとして、へき地に住みたいですか
- ・へき地でご自身の力を発揮したい・する必要があると思いますか

現在、結果を集計・分析中ですが、一部をご紹介します。

「へき地に住みたいと思いますか」

「もしも、ご自身に「子ども」ができたとして「住みたくない・どちらかといえば住みたくない・どちらかといえば住みたい・住みたい」

「へき地で（ご自身の）子どもの子育てについて、どう思いますか「へき地で育てたくない・どちらかといえば育てたくない・どちらかといえば育てたい・へき地で育てたい」

これらの各問に対する回答が肯定的な方向に変化（有意差を確認しました）しました。

また、自由記述の記述量の増加、多様化、肯定的な記述の増加が見られました。

集計の結果は、平成31年度「へき地教育研究」紀要でご紹介したいと考えております。

## 約250名が受講する旭川校の「へき地教育論」

－ 多くの受講生がへき地校体験実習の参加を目指す! －

旭川校へき地教育アドバイザー 田中 和敏

旭川校の「へき地教育論」は前期2単位、後期2単位で、基本的に前期・後期ともほぼ同内容で行っています。本年度は、前期75名、後期173名が受講しています。受講生の多くは1年生ですが、編入生や3年目・4年目の学生も若干受講しています。

受講の理由は様々ですが、2年次の「へき地校体験実習」参加の条件に「へき地教育論」の単位取得があるため、「へき地校体験実習の参加を考えているため」という受講生もいます。また、「へき地・複式・小規模校」に在籍していた経験がなく、へき地・複式教育についての知識等がほとんどないので、へき地・複式教育とはどんなものなのか知りたいと考えている受講生も多いようです。一方、へき地・複式・小規模校での生活を経験したことのある受講生は、そこでの学習の意義や教師の関わり方などについてより詳しく知りたいと考え受講しているようです。さらに、北海道で教員をやっていくためには「へき地・複式・小規模校教育」について在学中から知っておきたいと考えている学生も多く、「へき地・複式・小規模校教育」に関わってきた者として、とても嬉しく、かつ頼もしいと感じています。



本年度後期の講義内容と使用する主な資料は次のようになっています。

### ◇講義の構成

#### ① 1～3回目

「へき地教育の歴史」と「へき地教育振興法の制定の意義」

#### ② 4～7回目

「へき地教育の現状と課題」と「へき地・小規模校の特性を生かした教育」

#### ③ 8～11・13回目

「同単元指導と学年別指導」など「へき地教育の学習指導の在り方」

#### ④ 12回目：へき地校体験実習報告会

「へき地校の特色ある取組」について

#### ⑤ 14～15回目

「集合学習・交流学习」などの「へき地校における学習の工夫」と「これからのへき地教育」

◇主な資料等

①複式学級における学習指導の手引：北海道教育大学 学校・地域教育研究センター

②DVD：北海道教育大学 学校・地域教育研究センター

- ・高学年の同単元指導「国語」：幕別町立駒島小学校
- ・中学年の学年別指導「国語」：岩見沢市立メープル小学校
- ・中学年の学年別指導「算数」：標茶町立磯分内小学校

③全国へき地教育新聞：教育新聞社

- ・論評「競わない環境で、向上心をもつ」：静岡県指導主事
- ・論評「へき地教育と主体的な学び」：広島県指導主事
- ・論評「小規模であることを生かした教育」：北海道指導主事
- ・論評「地域と共に歩み続ける教育」：山梨県指導主事

④実践事例等

- ・東京都御蔵島村立御蔵島小学校・中学校 教育課程研究指定事業 研究成果
- ・弟子屈町立奥春別小・美留和小・和琴小集合学習
- ・中富良野町周辺校社会見学・学校間交流学習

⑤資料作成参考書籍

- ・子どもと地域の未来をひらくへき地・小規模教育の可能性：玉井康之(教育新聞社)
- ・複式教育ハンドブック：広島大学附属東雲小学校(東洋館出版社)
- ・へき地複式教育ハンドブック：全国へき地教育研究連盟



講義では毎回受講プリントを配布し、講義内容に対する考えや感想の記述を通して、へき地・複式・小規模校教育についての認識を深め、へき地・複式・小規模校教育の充実に向けた意識向上を図りたいと考えています。真剣に自分なりの考えを記述しており、良好な受講態度とへき地・複式・小規模校教育への興味・関心の高さを実感しています。

= 受講プリントから =

◇DVD：学年別指導（磯分内小 3・4年 算数）

### 【1年生】

今回は初めて同時間接指導を見た。私が生活していた30人のクラスと比べ、生徒1人1人があたり前のように課題解決に向けて、1人で集中して考え、周り話し答えを見つけ出すことができるのはすごいことだと思う。

全員がはずかしがらずに人前で発表し、周りの意見を聞くことができる力はどこよりも高いと思う。30人クラスでは特別に自信のある生徒だけが発表し、先生のリードに任せてしまうことが多い。学習能力は高いかも知れないが、発表する力や積極性はこのクラスの方が非常に高いと考える。

自分自身の勝手なイメージで、間接指導を受けている方の学年は、ほうっておかれ授業が止まるイメージを持っていたが、直接指導を効果的に行うことで、マイナスよりプラスにより力をつけることができる時間になっているのがすごいと考えた。

◇へき地教育新聞：論評「小規模であることを生かした教育」

### 【1年生】

小規模校の教育は長所より短所の方が目立つ印象だったが、この記事を読んで印象が変わった。少人数という環境を最大限に生かした1人1人にきめ細かな指導を通して、学力を身に付けられるのは魅力的だと思った。また、へき地の豊かな自然環境を生かした体験活動や地域の歴史について学ぶことなど地域に根ざした教育はその地域特有なもので、子どもにとっても貴重な経験になると思い、非常に興味深かった。教員の不足や高度な勉強ができないなどデメリットが目立つへき地の教育だが、このような明るい話題をもっと発信して、世の中にへき地教育の魅力が伝わればいいなと思った。

最初にも書きましたが、この単位取得が「へき地校体験実習」参加条件となっています。前期講義の最終回に行ったアンケートでは、来年度のへき地校体験実習へ参加を考えている1年生31名、参加を考えていない1年生18名と約6割が参加を考えていました。また、ここ数年80名以上の学生がへき地校体験実習への参加を希望しています。しかし、実際にへき地校体験実習に参加できるのは55名前後です。実習受入校の拡大や実習内容の工夫・充実が、「へき地・複式・小規模校教育」に関心をもっている学生のより充実した学びへとつながるのではないのでしょうか。

北海道の教育を考える上で、「へき地・複式・小規模校教育」は切り離すことのできないものです。「へき地教育」は「教育の原点である」という言葉もあります。とすれば、へき地教育について考えるということは、教育そのものを考えることにつながるはずです。実際、新学習指導要領の趣旨を考えるとき、へき地・複式・小規模校における取組には、大規模校等においても活用できるものが数多くあります。

このようなことを考えると、この講義が果たす役割には大きなものがあると言えます。今後も、工夫・改善を図りながら一層の充実を図ろうと考えているところです。